

地域にはばたく市民パワー！



ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2019年11月号(第132号)

発行責任者 佐藤 重松



2019.09.20 葵の会 / 沼津方面文学散歩 三島大社にて 写真撮影 / 竹内 寛

第13期定期総会開催について

会長 佐藤 重松



「広場」10月号でお知らせしました第13期ところざわ倶楽部総会は11月22日(金)に開催致します。総会では第12期の事業報告と決算について。また、第13期の方針、事業計画、予算について議案書に従って審議致します。

12期総会で、活動方針案が承認され、それに基づいて一年間運営して参りました。

- 1、会員の高齢化がすすむ中で、体調の問題や家庭の事情等で退会を余儀なくされた方に対して
- 2、全会員をつなぐ各種事業はどうであったか
- 3、各サークル活動と関連するサークル同士のコラボとミニ講演会やミニ集会について
- 4、市民大学OB三団体の交流について
- 5、新しいサークルの起ち上げについて

前進した点、課題として残った点などを確認し合い、第13期の活動方針につなげたいと思います。

第13期総会は、飲食不可の新所沢公民館ホールで開催します。従来の懇親会が出来ませんので、21世紀の大問題の1つ「海洋プラスチック問題が私たちに及ぼす影響」と題して、容器包装の3Rを進める全国ネットワーク運営委員長の中井八千代氏に講演をお願いしました。環境問題は地球の死活に関わる大問題、先ず現実を学びましょう!!そして、“3Rを日常生活で意識して実践し広げていきましょう”

1) **リデュース** (ゴミの量を減らすこと) 2) **リユース** (くり返し使うこと) 3) **リサイクル** (資源や不用品・廃棄物などを再利用すること)、**3R**を胸に刻みましょう。

会員の皆さんのネットワークで友人・知人をお誘い下さい! ホールを埋め尽くしましょう!!

第1回ところざわ倶楽部まつりの総括

実行委員 岡本 詔一郎

大成功 ～みんなの知恵と努力の結晶～



手作りストラップオカリナ演奏中
岡本太郎記念館にて

私は市民大学13期と15期を卒業しました。友達が一杯出来て今の私の財産です。事故を起こし、車は廃車、免許証返納、もっぱら一日中どこに行くのも自転車、2～3人の知人とすれ違う毎日。

15期は市民大学が二年制になった二期目で、卒業年次はところざわ倶楽部が発会した年でした。卒業を控えた時期、各課程は卒業したら「ところざわ倶楽部」に入会し、サークルを立ち上げて欲しいと言われ、藤田先生の音楽課程だった我々は、おたまじゃくしの会を立ち上げました。遊びの会でもあり、今は独自に活動中。

15期を卒業し、倶楽部に入会し、理事になり、企画委員を務めていました。当時理事は任期が二年でしたので、二年で理事退任。理事を降りても、おたまじゃくしの会長をやっていたことと、オカリナ同好会を立ち上げた時期でもあり、ところざわ倶楽部に「文化祭を立ち上げたらきっと成功する」と思い付き、理事の渡辺さんに構想を紙面にして説明し、理事会に諮って頂きました。・・・

その年は、震災の年でもあり、一年先に延ばすことになり、次の年に第一回が開かれました。私は言い出しっぺでもあり、毎年、舞台に立ちたいと思い、最初の年はオカリナ楽団？演奏、次の年は鼻笛の斎藤さんとオカリナコラボ演奏、シニアデビューの会でファッションショー、昨年と今年はチアダンス、毎年出させて頂きました。作品展示も毎年！



宮川農園ご提供の果物
試食風景 (リンゴ・ブドウ)

今年は、その文化祭が「まつり」になるとチア仲間の総務

ところざわ倶楽部文化祭から名称を変更しての第一回目のおまつり！

第一回目に相応しく素晴らしい大会になったと思います。

部長中原さんから聞き、実行委員に無理に入れていただき、今日こうして総括を書かせていただく破目になりました。



サークル活動報告／展示

今回の目玉は、全サークルが一丸となつての舞台発表、作品展示、サークルの勧誘・説明だったと思います。また、実行委員の皆さんは、まつりの第1回目でもあり、気合が入っていました。会長さん始め、三部長さん総がかりで、舞台発表、作品展示、大抽選会の準備等に陣頭指揮されました。また、一般会員の皆さんの熱心な参加意欲が重なり、上手くいったと思います。



サークル活動報告／舞台
所沢の自然と農業

一つの例ですが、佐藤美津子さんのお花を展示作品の間に飾ることになっていましたが、前日の準備の日に、一番手前が良いと園田さんが提案され、場所を変更しました。結果、大成功！



陶芸 魯山人風椿模様鉢他
展示 柳沢 千賀子

の思い付きと実行、皆さんの努力と、サークル一丸となつてのおまつりを楽しむ姿勢が感じられ、最高に盛り上がり、大成功でした。

来年は、更にもっと素晴らしい「ところざわ倶楽部まつり」にして、楽しみましょう。

写真撮影 / 仲山 富夫、中島 峯生



環境講演会

11月22日
総会終了後

海洋プラスチック問題が私たちに及ぼす影響
世界の海には1億5千万トンを超えるプラごみが存在している!!

地球環境に学ぶ 塚本 二郎



中井 八千代氏

11月22日（金）ところざわ倶楽部総会後に行われる講演会の概要をご紹介します。

講師は「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク」の運営委員長・環境カウンセラー中井八千代氏です。中井氏は今注目されているこのテーマを各地で講演されています

が、私は最近2度聴講しましたので、以下に要約します。

1. 何が問題なのか。

- ・プラが波、岩、紫外線等で小片化し、魚、海鳥が誤飲し消化器に滞留、食物連鎖の中で有害化学物質が濃縮する。また食塩大のマイクロプラにより、プランクトンが減少し魚が減る危惧があるなど、まだ正確なデー

タはないものの生態系が崩れるおそれがある。人体に与える影響については調査中。

2. プラは燃やして良いか。

- ・焼却大国日本ではサーマルリサイクルと称し熱や電気を回収しているが、基本は温暖化を促進するので早く止めたい。プラからプラへのリサイクル技術の開発が望まれる。

3. これからの課題

- ・使い捨てプラスチック製品がなるべく作られないよう法制度の見直しが必要。それには、生産者の責任を製品の消費後の段階まで拡大させる。この事で、廃棄物抑制、リサイクルが容易な製品が期待できる。
- ・EUで行われている、リユースびん、デポジット（預かり金払い戻し制度）、水飲み場設置など参考に。

文芸講座「平家物語と能」続編

葵の会 水上 俊彦

「葵の会」は観世流名誉師範、竹内好夫先生をお迎えして、この9月から12月まで各月1回4回シリーズで、一般希望者30名を加えて『平家物語』と『能楽』のコラボ講座を行っている。5月から6月に行われたところざ



平家物語と能楽のコラボ講座
竹内好夫先生講座風景

わ倶楽部主催の文芸講座『平家物語』“滅びの章”に引き続く講座ですが、一般希望者は募集を始めると直ぐに定員を超えてしまうほどの人気でありました。心に染み入る言葉であろうか、第一巻冒頭の“祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の・・・”に始まる平家物語は人生への指針であり、日本人なら誰もが惹かれる文であると思う。学校でもっと深く教えるべきものと思うけれど、題名くらいを教わってきただけで、この歳になるまで中身まで読んだことのある人は少ないのではないだろうか。第1回「大宰府落」と能「清経」、第2回「海道下」と能「熊野（ゆや）」を終わり、十一月は「藤戸」、十二月は「実盛」が予定されています。平家滅亡後から約二百年後の室町時代に観阿弥・世阿弥によって能が大成されたなかで、平家物語の章からも多く採られて3次元的に脚色され現在に伝えられ、2008年ユネスコの無形文化遺産となっている。先生自ら執筆、編集、印刷されたテキストは色鮮やかな絵巻物や写真、古代の地図なども含まれ分かり易く、とても興味を惹くもので、学ぶ者を楽しませてくれています。

おすすめの1冊
第5回

融けていく家族へのまなざし

23期 吉田 文枝



村田 喜代子 著
文春文庫

仲間と共に、地域の居場所づくりとして隔月で「ブックカフェ」を開催している。コーヒーとお菓子付き500円で、2時間を楽しんでいる。本のオススメというのはとてもおもしろく、一人一冊(多い人もいるが)持参して紹介する本は、重なることがない。それぞれの読んでいる本がちがうからこそ広がる世界がたのしい時間だ。

そこで紹介された本で「**蕨野行**」は、あ〜いい本だった、という読後感の本だった。物語のようで本当にあったらしい話。

内容(「BOOK」データベースより)

押伏村には、六十歳を越えると蕨野という丘へ棄てられる掟がある。だが、死を待つ老人たちは悲惨で滑稽な集団生活を送りながらも、生への意志を逞しくしていく。死してなお魂は生き永らえるのか?

棄てられた姑と嫁の心の対話を通して、人間の「生」の本質に鋭く迫る、平成日本によみがえる衝撃の棄老伝説。

そして、もう一つのオススメ。

鳥はねぐらにかへれども〜
融けていく家族へのまなざし

著者 西山明(三五館、2005)

著者プロフィール

1949年東京生まれ。

74年共同通信社入社。

2004年6月より本社編集委員。

90年代より特にいじめや家族問題、若者の現象などを丹念

に取材し現代を問い、人間の深部をやさしい視線で見つめる数多くのルポを手がけた。

2005年4月1日永眠。

この本を手にしたのは、数年前にブックトークの時間に紹介されたことがきっかけだった。紹介された内容を聞いて興味をもち、読んでみることにした。以来、忘れられない本になった。この本が出版されたのは2005年、それから10年以上が過ぎたが、今も世の中ではさまざまな事件が起きている。孤立、暴力、いじめ、自殺、虐待、拘束、監禁など、複雑な事件には、どうしてなのだろう?と思うことが多く、人間関係の闇を感じることもある。そんな中、筆者は多くの事件からいくつかを取り上げて丹念に取材をし、加害者が育ってきた背景、家庭環境や人間関係などを明らかにしていく。家族の内部で起きていることや、暴力の連鎖など、この本を読んで、そうだったのかとあらためて知ることも多く、ニュースや新聞で見聞きする情報はごく一部でしかないことを痛感した。また、筆者のやさしいまなざしは加害者がなぜ事件をおこしたのか、加害者の家庭や社会の問題をどう考えるか、厳しい状況にどのように対応していくかなど私たちに問いかけてくる。東日本大震災後、人のつながりの大切さが再認識されたが、必要なのは災害時だけではない。孤立させない、追い込まない人間関係をどのようにつくるのか、人との向き合い方や、家族や社会のありようを問い直す大切さを思う。

内容(「BOOK」データベースより)

なぜ、そこまで追い詰められたのか。人間関係の中で生きていくことは、被害と加害の経験を集積していくことではないか。孤立、暴力、いじめ、不登校、自殺、虐待、拘束、監禁…複雑化、衝撃性を増す家族事件の深層を読む、戦後60年間の日本人の道程。「家族問題」の深奥を問い続けたジャーナリスト30年の軌跡。



西山 明 著
三五館

「戦争と平和！」
第 16 回**ひとはなぜ戦争をするのか**

井上 幸夫

“人間を戦争というくびきから解き放つことはできるのか” この言葉は物理学者アルバート・アインシュタインが、今から 87 年前の



A・アインシュタイン(著)
S・フロイト(著)
浅見省吾訳
講談社学術文庫

1932 年 7 月心理学者ジグムント・フロイト宛に出した書簡のテーマです。彼は戦争の絶えない世の中を憂慮し、人はなぜ戦争を繰り返すのか、人の心の中にも問題があるのではないかと、憎悪と破壊という病に冒されないようにすることはできるのかと、フロイトに問うたのです。フロイトは、人間には本来保持統一しようとする生への欲動と、破壊し殺害しようとする死への欲動を併せ持

っている。それらが複雑にからみあって人を戦争や暴力へと駆り立てて来た。ために死への欲動だけを取り除いて、戦争を避けることなど出来そうにないが、一方文化（文明）の発展は心のあり方に変化を引き起こす。知性を強めること、攻撃本能を内にむけることで欲動をコントロールし始める。“文化（文明）の発展を促せば戦争の終焉へ向けて歩みだすことができる” こう結論づけています。（参照：「ひとはなぜ戦争をするのか」講談社 浅見省吾訳 2016 年発行）

平和を心から願っていた二人は手紙を交換してからほどなくナチスドイツの台頭により、ドイツから亡命、第 2 次世界大戦をみることになります。

私は 1947 年（昭和 22 年）8 月生まれのため自身の戦争体験はありません。戦争といえば故郷が田舎でしたから、子供のころ「カンサイキの弾が落ちていた」とか「ゼロセンの車輪を台車に使っている」とかの話を小耳にはさんだことや観光地で軍帽に白衣義手義足の男達が数人アコーディオンやハーモニカを吹き鳴らし佇立している様子が記憶に残っている程度です。

戦争という事柄を意識したのは中学生の頃、たまたま家にあった古びた本を手にとったことからでした。「土と兵隊」「麦と兵隊」というノンフィクション小説です。従軍作家火野葦平が一兵士として、日中戦争に従軍し中国大陆

で戦っていく様を陣中日記風に描いた作品です。この本が私を戦争の疑似体験者となし、爾来アジアの戦争、政治、歴史に関して興味を抱かせる契機になったと思います。とりわけ日本が中国、欧米と戦争を始め、国家存亡の危機に至らしめた昭和史については、もっと深く学び直したいと思っています。

兵隊であった私の父は旧満州から、母方の叔父はシベリアから帰還できましたが、父方の叔父 3 名は南方で戦病死しました。日本は第二次世界大戦で 310 万人、中国は 1000 万以上の犠牲者が出ています。私が仕事の合間に中国で偶々見かけた戦争関連の事物。これらも歴史認識の一助になりました。満州事変勃発記念碑（満州事変・柳条湖）、満州国皇帝溥儀の政府庁舎（長春）、盧溝橋壁の弾痕（日中戦争・北京郊外盧溝橋）、上海杭州間の畑にあったトーチカ（上海事変）、蒋介石が軍閥張学良に軟禁された建物（西安事件・西安）、捕縛された姿の南京臨時政府汪兆銘夫妻の石像（日中戦争・杭州）など。私の手元に「所沢雑学大学 閉学記念誌」があります。所沢在住の村上二郎氏が主催した戦争経験者を講師に招き、その体験談を聞かせてもらう講座の終了記念誌です。1997 年から 2016 年までの 20 年間 355 回日曜日の午後、居眠り自由で無料でした。私の出席はわずかでしたが、高齢な講師の方々から貴重な体験談を聞くことができました。記念誌を頂いた時の村上氏のメモに「争いのない平和な社会を希っております」とありました。

戦後 74 年たちましたが、世界ではやむことなく戦争や紛争が勃発し、多くの人命が失われ続けています。大国は大量破壊兵器の発達で、もはやお互いの戦争は不可能であるにもかかわらず、自国の欲望に取りつかれ、陣取り合戦や軍備拡大に余念がないようです。我が国においては、日米安保条約が補強され海外派兵への道が開かれました。国防予算も年々増加しています。アインシュタインやフロイトは、もともと国を持たないユダヤ系でした。世界の国々が一堂に集う国際連合には期待を寄せるのでしょうか。過去に失敗した国際連盟から、文化の発展により、人々の知恵で成立した国際連合。かれらは国連に力を！とあの世で叫んでいるのかもしれない。

サークル活動報告

野火止用水散策

野老澤の歴史をたのしむ会
小林 典子

野火止用水は玉川上水分岐から平林寺までのおよそ 20 km であり、これを 3 回に分けて歩く計画の第 1 回目を 10 月 3 日（木）に行った。残暑厳しい中を 21 名も玉川上水駅に集合し、上水小橋 ⇒ 赤松並木の遊歩道 ⇒ 東京都薬用植物園 ⇒ ホタルの里 ⇒ 明治学院ライシャワー記念館 ⇒ 九道の辻 ⇒ 昼食（八坂 HACHI）⇒ 久米川駅（解散）の行程を歩いた。暑さとの戦いを覚悟していたが、木々を渡る風や澄んだ水の流れが心地よく、歩数計は 15,000 歩を刻んでいた。薬用植物園では博識のガイドさんのお話がどれも面白く、何時間でも聞いていたいと思え

たほど。その中の「ムラサキ」について・・・花色は白だが花期が 6 月～7 月なので見ることはできなかったが、根にはシコニンという色素を含み生薬の紫根（シコン）や紫色の染料として使われた。万葉集の「あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る」（額田王）に始まり、歌舞伎の「助六由縁江戸桜」で助六が頭に巻いている紫色の鉢巻が江戸桜であり、井の頭公園には江戸時代末に紫染関係者が建立した「むらさき燈籠」があり、東京市歌（1926 年～1943 年）の歌詞 1 番には「紫匂いし武蔵の野辺に・・・」とある。入場無料、西武拝島線東大和駅下車、徒歩 2 分。



公共施設マネジメント問題

傍聴席 石堂 智士



2019 年 9 月度定例会

今年は、市議選と市長選など各種選挙が 6 回も重なる選挙の年になりました。傍聴席では、発足以来続けてきた市議選立候補者へのアンケート調査を行いました。今後の定例会活動をアンケート調査から選ぶこととし、7 月、9 月と自由討議を続けて、公共施設マネジメント問題と公共交通の空白地帯問題の 2 つを選択しました。

というわけで、10 月定例会は公共施設マネジメント問題の第 1 回学習会を開催しました。10 月 21 日のフレッシュな活動報告をお伝えします。学習資料は、市役所へ行き、「所沢市公共施設マネジメント白書」（平

成 24 年発行 240 頁）を借り、この主要部分を 11 頁抜粋し、表紙を付けて、作成しました。目玉は、（学校教育系や行政系など）用途別施設の築年別資料や将来負担コストと地域別公共施設配置図の計 4 頁をカラープリントしたことです。

所沢市は、昭和 30 年代後半から住宅団地の開発が相次ぎ、昭和 30 年人口 6 万人が現在人口 34 万人となりました。人口増加に合わせて、昭和 40 年代から昭和 50 年代まで学校施設を建造してきました。学校教育系施設の延床面積は全体の 58% を占めました。

財政の問題は、更新前の投資的経費は 41.8 億円ですが、将来の公共施設の更新費用は 84.7 億円かかるかと予測されていることです。

少し前の資料なので、その後の改定資料など補足し、出前講座にて最新の状況を学習するなど理解を深めて、政策提言を目指していきたいと思います。この問題に関心をもたれる市民のみなさんの積極的なご参加を待っております。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. 葵の会 (水上 俊彦 080-6855-5868)

11月21日(木) 13:30~15:30 中央公民館3階8,9号室
竹内好夫先生講義第3回「平家物語(藤戸)」(9月~12月
4回シリーズ)、15:30~16:30 例会
12月12日(木) 13:30~15:30 中央公民館第4回(実盛)

2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)

11月20日(水) 13:30~16:00 中央公民館 8,9号室
定例会 「日韓問題に関する問題提起と討論会」
12月18日(水) 定例会 松澤会員(日本シンガポール
協会理事)による「シンガポールの昔と今」

3. 活きいきシニア福祉の会 (川上 紀春 090-5573-2548)

11月28日(木)13:00~15:00 生涯学習推進センター 定例会
DVD視聴「認知症について」学習
12月25日(水)13:00~15:00 生涯学習推進センター(予定)
定例会(新年度計画相談等)

4. 楽悠クラブ (福田 晴男 事前連絡は不要です)

11月12日(火) フランツ・レハール 喜歌劇
「メリー・ウィドウ」
12月10日(火) レオン・カヴァルロ 歌劇「道化師」
楽しい音楽をご一緒に!!!
いずれも13:15~ 中央公民館 3階8・9号学習室

5. 食を通して所沢を知る会 (園田 ヒロ子 090-4005-1882)

11月19日(火) 10:00~12:00 ふらっと会議室
「お茶の科学」と「中国茶の紹介」 講師:玉上会員
興味ある方ご参加お待ちしております。
11月17日(火) 10:00~12:00 ふらっと会議室
定例会:来年度の活動計画の話し合い

6. 地域の自然を考える会 (岩本 賢次 2923-9324)

10月末で、ところざわ倶楽部へのサークル登録辞退をさせて
いただくこととなりました。
長い間お世話になりありがとうございました。
代表:海老澤愛之助

7. 地球環境に学ぶ (中島 峯生 2928-1161)

11月19日(火) 9:00~11:00 新所沢東公民館 研修室
定例会:①第13期年度計画検討②、③持寄り学習、③「モル
ゲン明日」 輪番鑑賞
12月17日(火) 15:00~17:00 新所沢東公民館 研修室 定例会

8. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会 (田口 元也 090-9820-5668)

11月20日(水) 13:15~16:00 中央公民館1階学習室
定例会 年間総括・新年度基本方針討議
11月9日(土) 9:30~9:48 中央公民館ホール
中央公民館まつり参加 SP:チアダンス実演

9. 所沢の自然と農業 (稲村 洋二 2992-1751)

11月14日(木) 13:00~15:00 新所沢公民館 定例会
11月15日(金) 秋のウォーキング(飯能)
11月16日(土) 山田ファーム収穫祭
11月19日(火) 柳瀬荘黄林閣ボランティア
11月30日(土) 市大ファーム収穫祭(於:城公民館)

10. 野老澤の歴史をたのしむ会 (小川 雅愛 2907-9476)

11月21日(木) 7:30~18:30 小手指駅南口通り発
バス歴史紀行「菰山県ゆかりの伊豆の国市史跡巡り」江川邸 他
12月5日(木)時間未定、西武池袋線 秋津駅北口改札集合
市内史跡ウォーク東コース 淵の森、長源寺、安松神社 他

11. ドラマティック・カンパニー (高橋 信行 090-9393-6238)

11月16日(土) 10:00~12:00 中央公民館学習室7号
シェイクスピア戯曲「リチャード三世」朗読読み合わせ
12月21日(土) 10:00~12:00 場所未定「リチャード三世」
を読み進めます。 12:30~忘年会

12. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151)

11月12日(火) 10:00~12:30 西新井町会館 洋画「サウン
ド・オブ・ミュージック」(65年)アンドリュース
11月26日(火) 10:00~12:30~14:30 西新井町会館
邦画「遥かなる山の呼び声」(80年)松竹・倍賞千恵子
⇒ 年度纏め会 一年の総会 開催 イベントもあり!!

13. 脳活サークル (加曾利 厚雄 2939-2308)

11月23日(土)9:30 航空公園駅東口広場集合
石坂産業(株)三富今昔村 見学会
産業廃棄業に新風を吹込む話題の業者の自然を五感で学ぶ
12月9日(月)佐井先生による唄声喫茶風で脳活しよう!

14. 傍聴席 (石堂 智士 2947-0835)

11月18日(月) 14:00~16:30 新所沢東公民館 2号
学習会「公共交通の空白地帯問題」
12月16日(月) 新所沢東公民館予定、テーマ未定
終了後役員会予定

15. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283)

11月16日(土) 10:00~12:30
こどもと福祉の未来館 多目的室1号 定例会
12月20日(金) 12:00~13:00 こどもと福祉の未来館 総会
「弘法の三ッ井戸」「カヤ湯」「所沢の昔の風景」読み合わせ

理事会報告 12期第9回理事会を2019.10.21(月)開催

・9月24,25日開催された第1回ところざわ倶楽部まつりは、300
名以上の来場者があり大盛況であった。良かった点、反省点を
総括し、次回への申し送りとした。

・13期総会に向けて12期の総括と13期の方針、理事会新体制
について議論した。事業部、広報部、各サークルの協力により、
来場者が増え各事業とも予想以上の成果が上がった。来期につ
なげていくことを確認した。

・11月22日(金) 新所沢公民館ホール
13:00~14:00 13期定期総会
14:30~16:00 講演会 講師 中井八千代氏
テーマ「海洋プラスチック問題が私たちに及ぼす影響」

・来期行事予報

2020年1月27日(月) 新春の集い 彩翔亭
2020年2月29日(土) 中村敦夫朗読劇 中央公民館ホール

みんなの広場 第18回

アジア研究会
玉上 佳彦

祝！ノーベル化学賞受賞

嬉しいニュースが飛び込んできた。旭化成の吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞したのである。昨年のノーベル医学・生理学賞の本庶佑氏に続く快挙で、日本のノーベル化学賞の受賞は、吉野氏で8人目である。

今回の吉野彰氏の受賞理由は、現在たいへん幅広い分野で利用されているリチウムイオン電池の開発に貢献したことが高く評価されたのである。おそらく、吉野氏が旭化成で研究を始めた時点では、リチウムイオン電池が現在の幅広い分野で応用されるとは思っていなかったであろう。あくまでも基礎的な技術の積み重ねの結果がここに現れたといえるだろう。

最近の日本のノーベル賞受賞者が、近年の日本は、基礎研究に注力しなくなっていると懸念している。産学ともに目先の研究に注力する傾向が現れており、日本の科学技術の将来を憂いている。現時点では、日本のノーベル賞受賞可能な候補者は、まだかなり多くいるといわれているが、いつまで期待できるか疑問である。

ほぼ同年輩で、同じ応用化学分野を学んできた私にとっては、他人事とは思えない嬉しさがある。但し、地道な研究は、自分に向いていないと早々に判断して、方向転換してしまった私には、えらそうなことをいう資格はないが、若い世代が好奇心を持って科学を学び、独自の研究に取り組んでいてもらいたいものである。

むさし野俳句会（令和元年十月）井の頭吟行作品抄



類（く）ほれて電車を送る竹似草
童心居の水琴窟に秋を聴く
栗おこは食めば食むほど母の顔
秋の水満ち満ちノアの故事思ふ
掌にゆるく画鋏手渡す文化祭
秋じめり池にたゆたふ丹の宮
初紅葉見上ぐ双子の乳母車
老犬と歩む老婆や秋うらら
栈橋に舫ふ小舟や秋日影
金木犀風のかうは井の頭
分園の水辺の小径小鳥来る

高橋三加子
高 光 泉
利根川啓一
中嶋 弘子
中村 直子
橋本 佑子
平栗 彰子
宮本 信生
荒幡千鶴子
飯泉陽子
井出 昇

池の辺の径ぬかるみて秋出水
つた紅葉雁字搦め（がんじがらめ）の無人小屋
身にしむや飼育日誌に「食細し」
秋の蚊や彫刻群を見て歩き
天守閣より茫々の秋の海
秋風の渡る水面や雨情の碑
ちさき秋湖畔にひそと雨情の碑
はぜ紅葉結びし絵馬に外国語
竜淵に潜みひそむ雲浮く井の頭
水しぶき遠くに光り鳴来たる

海老澤愛之助
粕谷のぼる
河瀬 俊彦
小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高梨 千代
鈴木 征子
鈴木すぐる

《編集後記》

◆令和元年、この10月はまさに時代の始まりという印象的な月であった。関東から東北にかけて記録的な被害を及ぼした台風19号、その爪痕が癒えぬ間にワールドカップラグビーで、「ワンチーム」を掲げ日本チームが8強進出というビッグニュース、そして22日は天皇の「即位礼正殿の儀」が厳かにとり行われ、テレビに釘づけの日々であった。令和はどういう時代になる？◆我がところざわ倶楽部も、第1回ところざわ倶楽部まつりを開催、各サークルの熱演と展示で大いに盛り上がった。特に松井地区の協力を得て抽選会を開催、出席者も300人を超えたということで、昨年までのちょっと寂しかった文化祭に比し随分活性化していた。実行委員会の方々のご尽力に感謝したい。

◆広場も今月は「戦争と平和」、「おすすめの一冊」等密度の高い原稿内容、各サークルも公共施設のマネジメント問題から平家物語古典講座開催等多岐にわたる活動報告があり、倶楽部の高まりを感じました。（池田記）

「広場」問合せ 玉上 佳彦（090-2497-1076）

川柳（四十七）作品発表 選 中島峯生

課題「多い」

弁解に多くを語りウソとばれ
音量が上がるばかりの老夫婦
オンラインユー云ったあの日が懐かしい
年重ね海馬減つても紅つけて
皺が多いグチため息も笑っちゃえ
気が多く道具そろえてすぐ飽きる

「自由句」

買い控えているような冷蔵庫
定年で楽になる妻稀にある
上り下り人生模様坂の町
検診の体重計を見たくない
恐ろしい上手行き過ぎ後継り
嫌いでも会いたいのこれは好き

突拍子
りんご好き
庵閑子
庵閑子
鼻・鬚
海さる

次回（第48回）課題「質問」そして「自由句」

締切り日：11月20日、担当中島まで、どなたでも

宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp Fax04-2928-1161